

平成15年12月 検定試験

[No.20] プロペラ・シャフトのジョイントに関する記述として、**不適切なもの**は次のうちどれか。

- (1) ダブル・カルダン型等速ジョイントは、入力軸とカップリング・ヨークの角度によって生じる回轉變動と、出力軸とカップリング・ヨークの角度によって生じる回轉變動が相殺されることにより、ジョイント角による回轉變動を防止させ、回転の等速性が得られるものである。
- (2) トリポード型等速ジョイントは、ヨーク間に硬質ゴム製のカップリングを挟み、交互にボルトで締め付けたもので、特徴として弾性係数が低いことと、内部摩擦による減衰作用を持っていることである。
- (3) 横置きエンジンの4WD車では、路面の凹凸や負荷条件によるジョイント角の変化と同時に、エンジンのロール振動が、直接ジョイント角に影響し、こもり音を発生させやすい。このため、クロス・グループ型等速ジョイントを用いることにより、このジョイント角の変化に対応したものもある。
- (4) シェル形ベアリング・カップ・ジョイントは、ジョイント部において、カップとスパイダのスパイダ軸方向のガタによるプロペラ・シャフトのアンバランスの発生をなくすため、一般にスナップ・リングを選択して取り付けることにより、バランス性能を向上させたものである。